令和 4 年 6 月 12 日
関西言語学会第 47 回大会発表資料

自称詞「オレ」と人物像の結びつき

ー一人の男性話者による異なるグループ内での発話に注目してー

西澤 萌希
名古屋大学大学院生

1 はじめに

日本語は、他の言語と比べて多くの自称詞を持つ点で特徴的であるとされる（三輪 2005）。そのため、日本語社会では度々、自称詞使用に関する選択に迫られることとなる。例えば上司と話す時「オレ」よりも「ボク」のほうが良いのではないか、これはほとんどの男性社会人の共通意識であろう。また、親しい先生に対して休み時間に「ウチは～」と絡みに行くが、授業が始まったら「ワタシは～」と発言する。女子高生のこのような姿は容易に想像できる。前者の男性社会人の例は、“聞き手との上下関係”に基づいた使い分けである。後者の女子高生の例は、「親しい先生」という点では“聞き手との親疎関係”に基づいた使い分けであり、休み時間と授業の違いという点では“場の公私”に基づいた使い分けである。

自称詞の使い分けの基準として、聞き手との関係（上下や親疎など）、場の公私が挙げられてきた。加えて、自称詞が持つイメージから、ある特定の自称詞を使おうとする話者の姿も報告されている。例えば、Miyazaki (2004) が言及した男子中学生の次のような姿である。

> ヒデもまた学級という社会では力の弱い方であるが、力の強い男子の前であっても話し方を変えることはなかった。彼は筆者（Miyazaki）に「校長先生の前でさえオレを使うことができる」と誇ったように言った。彼のオレに対するしつこさは、彼が作り上げたいと願うアイデンティティに関連するのかもしれない。ヒデは彼自身について、男らしく変わりたいと思ってはいるものの、（臆病で怯えてしまうという意味で）女々しく、甘えの精神を持っており、女子のように振舞ってしまうという。
>
> (Miyazaki 2004: 269)[1]

[1] 拙訳。原文は以下の通りである。

> Hide did not modulate his speech in front of the strong boys, although he, too, was on the powerless side of social relationships in the gakkyuu. Hide boasted to me, “I could say ore even in front of the principal.” His persistence with ore may relate to the kind of identity he hoped to construct. Hide explained that he himself was memeshii ‘[a] sissy’, by which he meant that he was cowardly and easily frightened, had an amae no seishin ‘the habit of being indulged’, and acted like a girl, although

Miyazaki (2004) による報告の中でヒデが自称詞「オレ」に抱くイメージは「男らしさ」である。つまり、ヒデは自称詞「オレ」を《男らしい》人物像と結びつけて考えているのである。このように、自称詞と人物像の結びつきを想定した自称詞使用は、実は聞き手との関係や場の公私による自称詞の使い分けにも当てはまると考える。例えば、前述した男性社会人の例で、上司に「オレ」ではなく「ボク」を使用するのは、「オレ」が「ボク」よりも《粗野》な人物像と結びつき、そのような人物としての応対は、上司相手に相応しくないと考えるためであろう。女子高生の例も然りである。授業という公的な場は、いわば真面目に学習に取り組む場である。そのような場では、《軽々しい》人物像と結びつく「ウチ」よりも《真面目》な人物像と結びつく「ワタシ」の方が適している。したがって、自称詞の使い分けの基準として聞き手との関係、場の公私、自称詞が持つイメージが挙げられるが、それらすべて、“自称詞と人物像の結びつきを想定するもの”であるという点で共通する、というのが発表者の考えである。

では、自称詞は具体的にどのような人物像と結びつくのか。自称詞が結びつく人物像については様々な観点から考察されてきており、自称詞が異なれば人物像が異なること、さらには同じ自称詞でも様々な人物像と結びつくことが指摘されてきた。しかし、それら幾つもの人物像同士の関係性に関する考察は未だ不十分である。例えば「オレ」がある人物像と結びつく時、その人物像と結びつかない時と発話はどう異なり、どう共通するのか。また、どのような環境下である特定の人物像と結びつくように発話されるのか。これらの問題意識を持って自称詞と人物像の結びつきを地道に観察していくことにより、その結びつきの体系的な様相も明らかになってくると思われる。

以上を踏まえ本発表では、テレビのトーク番組中のトークを談話資料として用い、その中で自称詞に「オレ」を使用する一人の男性話者に注目し、その話者が異なる複数の談話グループの中で「オレ」を用いながらどのように発話するのか、自称詞以外の言語要素にも注目して観察する。そして、自称詞とそれら言語要素が組み合わさることでどのような人物像と結びつくのかを考察する。さらに考察を通して、ある特定の人物像と結びつく時とそうでない時の相違点、共通点を、言語要素と談話の環境（主に人間関係）に着目して分析する。

2　自称詞と人物像の結びつき

ことばと人物像の結びつきに関しては、これまでに様々述べられてきた。ここでは、金水 (2003) と定延 (2011, 2020) による指摘を踏まえ、本発表の観点や立場を述べる。

金水 (2003) は、特定の人物像を想起させる言葉づかいとして「役割語」を提示している。役割語は次のように定義される。

---

he wanted to change himself into a otokorashii ‘manly’ person.　(Miyazaki 2004: 269)

> ある特定の言葉づかい（語彙・語法・言い回し・イントネーション）を聞くと特定の人物像（年齢、性別、職業、階層、時代、容姿・風貌、性格等）を思い浮かべることができるとき、あるいはある特定の人物像を提示されると、その人物がいかにも使用しそうな言葉づかいを思い浮かべることができるとき、その言葉づかいを「役割語」と呼ぶ。
>
> (金水 2003: 205)

すなわち、「わしは～じゃ」といった言葉づかいは、老人という特定の人物像を想起させるため、〈老人語〉とも言うべき役割語である。

この「役割語」と結びつく人物像として、定延 (2011, 2020) は「発話キャラクタ」を提示している。定延氏によると、そもそも「キャラクタ」とは巷で「いじられキャラ」などと言われるような人物像のことであり、キャラクタはスタイルほど自在に変わることはないが、人格よりは変わりうる人物像、変わることはできるが、変わってしまったことが露見するのは避けるべき人物像である。キャラクタは発話や仕草などさまざまなものと結びつくとされるが、その中でも特に役割語と結びつくキャラクタを「発話キャラクタ」と呼んでいる。

金水 (2003) は、役割語の要素として人称代名詞、文末表現、なまり、感動詞、笑い声、アクセント、イントネーションなど、多くを挙げている (金水 2003: 205 – 207) 。この言及の通り、自称詞が単体で直接的に特定の人物像と結びつくとは考えづらい。むしろ、自称詞が他のいくつもの言語要素と組み合わさり、その同じ組み合わせを何度も繰り返すことで表現が慣習的になり、特定の人物像と自称詞のあいだに結びつきが生まれると考えられる。そこで本発表では分析の観点として、自称詞「オレ」を使用する男性話者の発話を、他にどのような言語要素を用いているのかに注目する。

したがって本発表は、自称詞と他の言語要素が組み合わさった言葉づかいを「役割語」であると仮定し、その言葉づかいと結びつく人物像を明らかにしようとする。この点で、「発話キャラクタ」の研究としての側面を持つ。

本発表ではトーク番組におけるトークを談話資料とするが、この談話資料はアニメやマンガのセリフなどと比べて、フィクション性の低い、つまりヴァーチャル性の低い言葉づかいが観察されると期待する。ヴァーチャル性が低い言葉づかいの場合、役割語と呼んでよいのかが疑問視されることがある。なぜなら、役割語の議論で頻繁に挙がるのは、平安貴族の言葉づかいのような特殊な言葉づかいだからである。しかし、発表者は役割語を決して特殊な言葉づかいとは考えず、“すべての日本語は役割語である”と考える。これは、定延 (2020) の考え方を踏まえてのことである。

> 日本語のすべてのことばは多かれ少なかれ「役割語」だということである。「役割語」と「ふつうのことば」があるのではない。というのは、たとえば平坦ではなく起伏のあるイントネーションで話すのは《宇宙人》キャラ以外の発話キャラ（クタ）、「まろ」「～でおじゃる」ではなく「私」「～です」と話すのは《平安貴族》以外の発話キャラ（クタ）という具合に、「役割語」でないことば、つまりすべての話し手が発話

> キャラ（クタ）に関わりなくしゃべることばは、実は見当たらないからである。濃淡の程度差はあれ、すべてのことばは「役割語」と考えることができる。
>
> (定延 2020: 182-183)

したがって、現実場面に近いトーク番組の談話においても、役割語や発話キャラクタの観点から、ことばと人物像の結びつきが観察可能である。

役割語や発話キャラクタに関する研究において、特定の人物像と結びつく文末表現が「キャラ語尾」と呼ばれてきた。それに倣い本発表では、特定の人物像と結びつく場合の自称詞を「キャラ自称詞」と呼ぶ。さらに、キャラ自称詞と結びつく特定の人物像を「自称詞キャラクタ」と呼ぶ。

3　調査概要

本発表で談話資料とするトーク番組は『グータンヌーボ 2』である。この番組は 2019 年 1 月 16 日から 2021 年 12 月 22 日まで、関西テレビで放送されたトーク番組である。この番組はレギュラー出演 4 名によるスタジオトークと、ゲスト出演 2 名とレギュラー出演 1 名の計 3 名による台本無しのトークの 2 部によって構成される。本発表で観察するのは、ゲスト出演 2 名とレギュラー出演 1 名の 3 名によるトーク 10 本であり、1 本あたり約 20 分である。特に本発表では男性 3 名によるトークを談話資料として扱う。

該当するトーク 10 本を宇佐美まゆみによる「基本的な文字化の原則 (Basic Transcription System for Japanese: BTSJ) 2019 年改訂版」を参考に文字化し、談話資料とした。扱うトーク 10 本の放送日、出演者、属性等は表 1 の通りである。本発表ではレギュラー出演の「満島真之介」が異なる複数のグループでどのように発話するかを観察する。

本発表で『グータンヌーボ 2』のトークを用いる理由は、次の 5 点である。

1 点目に、台本がなく、日常場面に近い談話が観察されると期待するためである。

2 点目に、様々な職業や年齢の参加者で構成された談話資料であるため、属性による偏りをある程度避けることができると期待されるためである。

3 点目に、談話参加者が著名人であり、その人物の属性や参加者同士の関係性等を比較的把握しやすく、分析に有効に働くと期待されるためである。

4 点目に、映像データであるため、発話時の様子を視覚的に捉えることが可能であり、分析に有効に働くと期待されるためである。

5 点目に、談話参加者がカメラの前で話すことに比較的慣れているため、自然談話の録音で難点とされる録画、録音を意識しない談話が見られると期待されるためである。

一方で、次のような資料の限界も考えられる。まず、トーク番組という性質上、編集がされているため、文脈をありのままに捉えること、間を正確に捉えることが難しいと思われる。また、公共のメディアという性質上、著しくぞんざいな言葉づかいが見られず、この点で自然談話との差異が生まれると思われる。しかし、編集されていてもある程度の文脈は捉えることができ、間については本発表の観点には含まれていない。加えて、著しくぞんざいな言葉づかいが見られない点は、程度の差こそあれ、自然談話の労

音調査やコーパスにおいても同様だと思われる。よって、これらの点は本発表において障害となるものではない。

表 1　調査対象のトークの詳細

データ番号	放送日	出演者	年齢（当時）	職業	発話頻度
GN1	2020年2月5日	武井壮	46	タレント	147
		小澤征悦	45	俳優	171
		満島真之介	30	俳優	174
GN2	2020年3月4日	日高光啓	33	ラッパー	170
		兼近大樹	28	芸人	207
		満島真之介	30	俳優	192
GN3	2020年3月25日	数原龍友	27	歌手	135
		朝倉海	26	格闘家	158
		満島真之介	30	俳優	147
GN4	2020年4月5日	佐藤大樹	25	ダンサー	179
		よしあき	19	モデル	215
		満島真之介	30	俳優	228
GN5	2020年4月29日	KENZO	35	ダンサー	188
		尾上右近	27	歌舞伎役者	137
		満島真之介	30	俳優	180
GN6	2020年6月24日	りんたろー。	34	芸人	110
		DJ松永	29	DJ	143
		満島真之介	31	俳優	104
GN7	2020年7月8日	松丸亮吾	24	タレント	154
		吉野北人	23	歌手	148
		満島真之介	31	俳優	199
GN8	2020年8月19日	武田真治	47	俳優	102
		おばたのお兄さん	32	芸人	140
		満島真之介	31	俳優	110
GN9	2020年9月16日	高橋茂雄	44	芸人	171
		休日課長	33	ミュージシャン	181
		満島真之介	31	俳優	145
GN10	2020年10月14日	武尊	29	ボクサー	163
		林家たま平	26	落語家	163
		満島真之介	31	俳優	180

4　分析Ⅰ：自称詞に注目した観察

本発表で注目する満島が、10 回のトークそれぞれで使用した自称詞とその回数、割合は表 2 の通りであった。なお、本発表で表に示す「割合」とは、観察対象の話者の各回

の“全発話文数”に占める“該当する言語要素が使用された発話文数”（小数第三位を四捨五入、単位は%）である。[2]

表 2　満島の自称詞使用

	オレ		ジブン		ボク		ワタシ	
	出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合
GN1	6	3.44	0	0	4	2.3	0	0
GN2	6	3.12	0	0	3	1.56	0	0
GN3	5	3.4	0	0	0	0	0	0
GN4	4	1.75	2	0.88	0	0	0	0
GN5	4	2.22	0	0	3	1.67	0	0
GN6	2	1.92	0	0	4	3.85	0	0
GN7	4	2.01	0	0	2	1.02	0	0
GN8	0	0	0	0	4	3.64	0	0
GN9	7	4.83	0	0	0	0	0	0
GN10	2	1.11	0	0	1	0.56	0	0
計	40	2.41	2	0.12	21	1.27	0	0

満島は「オレ」を最も使用し、次いで「ボク」を使用していた。「ボク」を使用するのは GN1, 2, 5, 6, 7, 8, 10 であった。そのうち GN1, 2, 5, 6, 8 は参加者の中に満島よりも年上がいるものであった。つまり、満島による「ボク」の使用は、聞き手との上下関係に基づいたものだと思われる。

GN7, 10 は満島以外の参加者が 2 名とも年下であったが、「ボク」が使用されていた。GN7, 10 それぞれでの「ボク」の使用場面は次のようであった。

(1) GN1

259	満島	いや、面白いよ。
260-1	満島	そう言ってるあいだにね,,
261	松丸	はい。
260-2	満島	**ボク**はね、もう答えを,,
262	松丸	あ、できました?[↓](えー?[吉野])。
260-3	満島	もう出したんですよ。
263	松丸	お。

[2] 本発表における「発話文」とは、宇佐美 (2019) の「発話文」と同定義である。

264	満島	[吉野の方を見て]ええ。
265	吉野	えー。
266	満島	こういうとこですよ。
267	吉野	やばい。
268-1	吉野	こっちに集中しすぎて,,
269-1	満島	でしょ?、<こう>{<},,
268-2	吉野	<話>{>}に。
269-2	満島	色んな、ここのことも話を聞きながら、そういう、この、状況も見つつ。
270	吉野	す<ご>{<}。
271	松丸	<す>{>}ごい。
272-1	満島	しかもなんかこう考えてるふうじゃなくて、こう,,
273	松丸	<しゃべ,しゃべりながら>{<}。
272-2	満島	<スルスルスルっていう>{>}。
274	松丸	すごい。
275-1	満島	でもこういうの重要だと思っててー(はい[松丸])、なにかやるときにー、こう,こういっ‘1’ポイント??(うん[松丸])、1 つのポイントだけをー、ずーっと追い続けるのもありなんだけどー,,
276	松丸	うんうん。
275-2	満島	なんかこう広く見た時にー、全体像が見えるっていうのが(うーん[松丸])、ある気がしててー、[吉野に]今のもまさにそうなんだよ。
277-1	満島	漢字(ううん[松丸])、こう図形,,
278	松丸	はい。
277-2	満島	そしてこう全体を見る力。
279	松丸	はい。
280	満島	オレ結構、いいね。

(1)は、満島と吉野が、松丸の作った謎解きに取り組みながら話している場面であった。満島はトークをしながら謎解きに取り組み、謎を解いたことを自慢する際に自称詞「ボク」を使用していた。同じ発話文で丁寧体も使用されていることから、ここでの「ボク」は自慢話をするが、偉そうになり過ぎないように、という配慮のもとで使用されていると思われる。

(2) GN10

46	武尊	<初め>{>}まして。
47	満島	よろしくお願いしまーす。

48	林家	林家たま平です。
49	武尊	あ、<お願いします>{<}。
50	満島	<よろしくお願い>{>}します[言ってから席を立ち、握手を求める]。
51	林家	お願いします。
		[カット]
52-1	武尊	[握手しながら]えじゃ,,
53	満島	<どうぞ>{<}。
52-2	武尊	<主役>{>}なんで真ん中で。
54	林家	<笑いながら>いやいや、そんな主役,じゃないですよ(<武尊笑い>)、ボクはもう。
55-1	満島	[真ん中の席を指して]<主役>{<},,
56	林家	<全然>{>}。
55-2	満島	もう主役<どうぞ>{<}。
57	武尊	<主役>{>}は真ん中に。
58	満島	今日はお話を**ボク**らが聞きに来た感じ##(<武尊笑い>)。
59	林家	[声を裏返しつつ]なにを話すんですかー?[↓]。
60	武尊	<笑い>。
61	満島	**オレ**すげー気になってんのが、たま平じゃん、名前。

(2)は、トークの序盤、まだ初対面のあいさつを終えたばかりの場面であった。そのため、58 で「ボク」が使用されているのは聞き手との内外の関係や場の緊張感によるものだと思われる。

(1, 2)の 2 つに共通して、満島は「ボク」を使用したすぐ後に「オレ」を使用していた。

以上より、満島がよく使用する自称詞は「オレ」であり、「ボク」は聞き手との関係性などに基づき、必要に応じて用いられる有標的な自称詞である。では、満島が「オレ」を使用するとき、どのような言葉づかいをするのであろうか。その特徴を、他の言語要素に注目して観察し、人物像との結びつきを考察する。

5　分析Ⅱ：自称詞以外の言語要素に注目した観察

自称詞に「オレ」を使用する際、満島はどのような言葉づかいをするのか。以下、間投助詞、終助詞、スタイルに注目して満島の発話を観察する。[3]

[3] 近年の助詞に関する研究では、間投助詞を終助詞と区別せず、「間投用法」などと呼ぶ動きがある。しかし、同じ単語でも終助詞としての使用と間投助詞としての使用で機能や想起される人物像が異なることが指摘されている (長崎 2008; 大江 2017)。

5.1　間投助詞に注目した観察

満島が 10 回の談話で使用した間投助詞の出現数、割合は表 3 の通りであった。なお、表中の網掛けは、満島以外の 2 名が年下の談話グループを指す。

表 3　満島の間投助詞使用

	さ		な		ね	
	出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合
GN1	0	0	0	0	5	2.87
GN2	0	0	0	0	7	3.65
GN3	3	2.04	0	0	13	8.84
GN4	15	6.58	1	0.44	3	1.32
GN5	1	0.56	0	0	7	3.89
GN6	1	0.96	0	0	7	6.73
GN7	8	4.02	0	0	13	6.53
GN8	1	0.91	0	0	4	3.64
GN9	0	0	0	0	5	3.45
GN10	8	4.44	0	0	6	3.33

満島は「ね」を間投助詞として頻繁に用いていた。一方で、談話グループによって出現数に差が見られたのが「さ」であった。特に満島以外の参加者がいずれも年下であった GN3, 4, 7, 10 では、「さ」の割合が他のグループと比べて高い。

GN3, 4, 7, 10 以外で「さ」が使用されていたのは GN5, 6, 8 で、一度ずつ使用されていた。これらのグループでの一例は、いずれも「だってさ」「でもさ」のように話し始めで用いられるものであった。

一方で、年下 2 名との談話では、「だってさ」「でもさ」のような使用に留まらず、文中の多様な箇所で間投助詞「さ」が使用されていた。

(3) GN4

293-1	満島	でも**さ**、ダンスとかも**さ**、最初の習うって言った時周りも**さ**,,
294	佐藤	はい。
293-2	満島	まあ“習うっつったって、えー”みたいな感じ【【。
295-1	佐藤	】】もうめちゃくちゃ<もう>{<},,
296	満島	<でしょ?>{>}。
295-2	佐藤	バカにされましたもん。
297	満島	<だと思う>{<}。

298	よしあき	<えー、バカにされたん>{>}ですか?[↓]。
299	満島	<だと思うよ>{<}。
300	佐藤	<めちゃくちゃ>{>}、当時は今,ぐらいダンスが普及してなくて(うん[満島])、“え、ダンス?[↓]”、みたいな感じだったんですよねー(うん[満島])。
301	佐藤	だからすごい、恥ずかしかったです。
302-a	満島	“できるわけないじゃん”みたいな(はい[佐藤])&,,
302-b	満島	“あいつ、なんか夢追っ<てるらしいよ”みたいな>{<}(<よしあき笑い>)。
303	佐藤	<<笑いながら>そうです>{>}。
304-1	佐藤	すごい標的にされんすよ,,
305	満島	<でしょ?>{<}。
304-2	佐藤	<なんか>{>}夢追ってる子って。
306	佐藤	なんでだろって思うんすけどねー。
307-1	満島	しかもさ、その、映像作るとかさ、それもさ、今でこそ当たり前になってきたけどー,,
308	よしあき	[小声で]そう<ですね>{<}。
307-2	満島	<“最初>{>}始めた時ってもう、え、『YouTube』?、とかって感じだったの<かもしんないなー”>{<},,
309	よしあき	<そんな感じでした>{>}。
307-3	満島	<とか>{<}。
310-1	よしあき	<あの>{>}、結構あの中学生から、あの『インスタグラム』やってたんですけど,,
311	満島	<うん>{<}。
312	佐藤	<うん>{>}。

(4) GN7

358-2	吉野	たまたま、『EXILE』さんの、オーディションがあって,,
360	満島	うん。
358-3	吉野	で、もうそれはすぐ応募して。
361	満島	おん。
362	吉野	“自分に負けないでよかったな”っていうのは。
363-a	満島	まあこれからもね、色んなことがあるだろうし、またね、自分も先輩になってくわけだったりとか、でまた演技始めて映画の,ね&,,
363-b	満島	主演やるとかさ、今、やってるけどー、たぶんいろんなことで、

		こう、ぶつかるってこともあるだろうけど。
364	満島	どう?[↓]。
365	満島	周りとかさ、兄弟,いる人でもさ、全然連絡とってないとか会わない人もいたり、親とも話さないっていう人って結構いたりする?。
366	松丸	結構多いですね。
367-1	松丸	それこそうちの大学はもう、結構全国から,,
368	満島	うんうん。
367-2	松丸	来るんでー,,
369	満島	うんうん。
367-3	松丸	ひとり暮らしを、東京でしてる人も多いからー(うん[満島])、なんか、実家帰らない人も多い,,
370	満島	あ<ー>{<}。
371	吉野	<あ>{>}ーー。
367-4	松丸	なんか、帰れないって人もいます。

5.2　終助詞に注目した観察

次に、終助詞に注目して満島の発話を観察する。満島によって用いられた終助詞の出現数と割合は表 4 の通りであった。なお、紙幅の関係上、多様に見られた終助詞の中から本発表の主意に沿って限定して表示する。

表 4　満島の終助詞使用

	じゃん		よな		よね	
	出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合
GN1	0	0	0	0	9	5.17
GN2	0	0	1	0.52	11	5.73
GN3	0	0	2	1.36	16	10.88
GN4	8	3.51	1	0.44	18	7.89
GN5	0	0	1	0.56	11	6.11
GN6	0	0	0	0	2	1.92
GN7	2	1.01	1	0.5	6	3.02
GN8	1	0.91	0	0	10	9.09
GN9	0	0	0	0	5	3.45
GN10	8	4.44	0	0	12	6.67

「じゃん」は、GN4, 7, 8, 10 で使用されていた。そのうち GN4, 7, 10 は満島以外が 2 名とも年下であった。GN8 で「じゃん」が使用された場面を以下に示す。

(5) GN8

237	満島	でもイチャイチャはめっちゃするんすよね?[↓]。
238	おばた	めっちゃ、そうす、仲いいっすね、<もう>{<}【【。
239	武田	】】<イン>{>}タグラムとか、撮りあっこ‘合いっこ’(あ[おばた])、してるの<かな?>{<}。
240	おばた	<そう>{>}っすねー。
241	武田	<いいっすねー>{<}。
242-1	おばた	<ボクはだから>{>}、『たんちゃん』の、その,,
243	武田	<ん?>{<}。
242-2	おばた	<あ>{>}のー。
244	おばた	[武田に]『たんちゃん』。
245	武田	<『たんちゃん』?[↓]>{<}。
246	満島	<『たんちゃん』?[↓]>{>}。
247	満島	“たん”って、なんか入ってましたっけ?[↓]。
248	武田	<“たん”入りましたっけ?[↓]>{<}。
249	おばた	<“たん”、いや『山崎>{>}夕貴』なんなんすけど、まあボクは『たんちゃん』って(<満島笑い>)、<呼んでる>{<}。
250	満島	<<笑いながら>ちょ待って>{>}、なにゆってる?[→]。
251	武田	さりげなく、そうエクスキューズなくゆわれると(あ[おばた])、“別の人の話を始めたのか”と、<笑い>(<満島笑い>)。
252	満島	[口を押えながら]<笑いながら>出ちゃった**じゃん**。

(5)は、おばたが妻との暮らしについて話す中で急に妻を愛称で呼んだことに対し、武田と満島が混乱している場面である。GN8 は満島以外の参加者が 2 名とも満島よりも年上のグループであったが、ここでの「じゃん」は混乱している中での発話で使用されており、他の発話と比べて聞き手意識が低下している可能性が否めない。

したがって、満島は年下との発話において終助詞「じゃん」を使用する傾向にあると思われる。以下、GN4, 10 での「じゃん」の使用例である。

(6) GN10

401	満島	でもさ、これー、もうほんとにその体の関係性まで話すわけ**じゃん**。
402	よしあき	<はい>{<}。
403	佐藤	<うん>{>}。

404	満島	もうないよね?[↓]、隠すことね。
405-1	よしあき	え、<そうなんですよ>{<},,
406	佐藤	<確かに>{>}。
405-2	よしあき	ほんとになくて、お風呂とかもずっと小さい頃からずっと(うんうんうん[満島])、両親に入れられたんで(あーそっか[佐藤])、今でもその名残で例えば、お互い、明日仕事が早い時とかはもう、めんどくさいんで一緒に入ったりしちゃいます,,
407	佐藤	えー。
405-3	よしあき	今でも。
408	満島	あ、そう。
409	よしあき	3 日ぐらい前も、それで一緒に入りました。
410	佐藤	すごい。
411-a	よしあき	でも、もうそれも別になんかもう普通にシャーーて感じで(うんーー[満島])、で“バイバーイ”って、“先出るねー”みたいな&,,
411-b	よしあき	そういった感じすよ、お姉ちゃんとは。
412	満島	でもさ、ヨシくんがそう、**じゃん**。
413	よしあき	はい。
414	佐藤	うん。
415	満島	てなるとさ、世の中の男性はほとんどそうじゃないわけよ。
416	佐藤	うんうんうん。
417-1	満島	だからお姉さんってー、好きになったことがない、自分からさー,,
418	佐藤	うん。
419	よしあき	あー。
417-2	満島	やっぱりここまでオープンな(うんうん[佐藤])、弟がいると、そんなオープンな人がいないから,,
420	佐藤	うん。
421	よしあき	あ、なるほどー。
417-3	満島	かもしれない(いやー[佐藤])、ちょっと。
422	よしあき	<笑いながら>ボクのせいですかね?[↓]。

(7) GN10

191	林家	その、すぐ後にフラれるっていう。
192	満島	え、そのさ、予兆みたいなのはなかった?[↓]。

193	満島	なんかその日、デート(うーん[武尊]),するってもう決めてた,わけ**じゃん**。
194	林家	[声を裏返しつつ]全くないんですよね。
195	武尊	いきなり?[→]。
196	林家	連絡とかは普通に取ってるんですよ?。
197	武尊	じゃあなんか、デートの最中になんかあったんじゃないすか?[↓]、<もう>{<}。
198	林家	<と>{>}しか考えられないっすよね?。
199	満島	心当たりあるんすか?[↓]、それは。
200	林家	“もっと男らしい所を見せればよかったのかな?”、という…。
201	満島	ドキドキさせ,きれなかった<とか?[→]>{<}。
202	武尊	<あ>{>}、やろうと意識してやると、逆にちょっと変な感じに<なっちゃうからー(そうそうそうそうそうそう[満島])>{<}。
203	林家	<すべっちゃってね>{>}ー、なんか。
204	林家	でもね、別れ際にね、“あなたに興味がなくなった”って言われたの覚えてる。

「じゃん」と似た場面で使用される終助詞に「よな」「よね」がある。例えば(7)の「デートするってもう決めてたわけじゃん」は、「決めてたわけよな」や「決めてたわけだよね」と言い換えても、何ら問題ないように思える。しかし、表 4 のように、「よな」は全体を通して使用頻度が少なく、「よね」は全体を通して比較的多く使用されており、談話グループによる特徴が見られない。よって、満島が年下の聞き手に対して用いる終助詞は、「よな」「よね」ではなく「じゃん」であり、この点で満島の終助詞使用に特徴があると言えよう。

5.3　スタイルに注目した観察

最後に、スタイルに注目して満島の発話を観察する。本発表におけるスタイルは、非丁寧体、丁寧体に加え、中村 (2020) が「～っす」という話し方に対して名付けた「ス体」を含むものである。[4]

満島による各スタイルの出現数と割合は表 5 の通りであった。なお、NP は非丁寧体、S はス体、P は丁寧体を指す。NM は文が途中で終わっていたり、笑いのみであったりと、文末が認められなかったものを指す。

[4] 中村 (2020) は「ス体」を、丁寧体と非丁寧体の中間的なものであると位置づけている。ス体は、現実場面では体育会系男子の後輩が先輩に対して使用する傾向にあると報告している。本発表の立場上、人物像と結びつくものである以上、ス体を丁寧体や非丁寧体に含めて考えることはできない。

表 5　満島のスタイル使用

	NP		S		P		NM	
	出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合
GN1	36	20.69	32	18.39	67	38.51	35	20.11
GN2	49	25.52	29	15.1	78	40.63	36	18.75
GN3	77	52.38	16	10.88	22	14.97	27	18.37
GN4	166	72.81	3	1.32	7	3.07	49	21.49
GN5	70	38.89	27	15	28	15.56	56	31.11
GN6	22	21.15	23	22.12	31	29.81	29	27.88
GN7	117	58.79	2	1.01	9	4.52	72	36.18
GN8	16	14.55	20	18.18	43	39.09	32	29.09
GN9	3	20.69	39	26.9	32	22.07	39	26.9
GN10	109	60.69	3	1.67	7	3.89	54	30

満島以外の談話参加者全員によるスタイル使用の割合の平均は、非丁寧体が 29.0%、ス体が 14.9%、丁寧体が 27.5%であった。

このことを踏まえると、満島は、聞き手が 2 名とも年下である GN3, 4, 7, 10 において非丁寧体を多く用いており、またス体の使用は少ない。その傾向は特に GN3 を除いた GN4, 7, 10 で顕著であり、ス体の割合は 2%未満であった。

GN4, 7, 10 で満島がス体を使用している例を見ると、(8)のように、そのほとんどが初対面の場面であった。すなわち、この 3 つのグループにおける満島のス体使用は、内外の関係に基づいたものであり、談話が進むにつれてス体は使用されていない。

(8) GN4

7	満島	おーー、<こんにちは、初めましてー>{<}。
8	よしあき	<初めましてー、こんにちは、よしあきで>{>}ーす。
9	満島	よしあきさん。
10	満島	満島ですー。
11	満島	<よろしくー>{<}。
12	よしあき	<よろしくお願い>{>}しまーす。
13	よしあき	めちゃめちゃ緊張してます。
14	満島	緊張してる?[→]。
15	よしあき	<#>{<}【【。
16	満島	】】<手>{>}汗かいてる?[↓]。
17	よしあき	<笑いながら>え、そう(<満島笑い>)、ごめんなさい、こんな手で握手してしまって。
18	満島	一番最初に、だって、来たら緊張するよねー。

19	よしあき	めちゃめちゃ緊張してました。
20	満島	じゃあどうしようか?。
21-1	よしあき	あ、ど、どこがいい、<でもなんか>{<},,
22	満島	<いやいい、いいっすよ>{>}、**いいっす**よ。
21-2	よしあき	なんか、奥、奥が、偉い方ってちょっと調べて…。
23	満島	いいよ。
24	満島	**関係ないっす**よ。
25	よしあき	<え、なんか>【【。
26	満島	】】<じゃあ、>{>}オレここでいい?[↓]。

その一方で、GN4, 7, 10 よりス体が使用されていた GN3 では、初対面場面に限らず、ス体の使用が見られた。例えば(9)のような使用であった。

(9) GN3

132	朝倉	そうだそうだ、なんかまだ、ヤンキー上がりみたいな感じで(んー[数原])、見られてるんすけど…。
133	満島	**ヤンキーだったんす**か?[↓]。
134	朝倉	ボクは違うんですけど(うん[満島])、こ、兄貴がー、そっち、もうめちゃくちゃヤンキーで…(<数原笑い>)(へーー[満島])。
135	満島	それをどういうふうに**見てたんす**か?[↓]、その、小さい頃っていうか。
136-1	朝倉	だからボクは、なんか兄貴、そういう兄貴を見て反面教師じゃないすけど(うん[満島])(うん[数原]),,
136-2	朝倉	“オレもこうなってたらもう、親悲しむな”と思って(あー[満島]),,
137	満島	<なるほどねー>{<}。
136-3	朝倉	<“そうなっちゃ>{>}ダメだな”(うん[満島])と思ってずっと、真面目に生きようと思ってましたねー(へー[満島])。
138	満島	でもどっかからね、戦いたいみたいなんあった<ってことでしょ?[↓]>{<}。
139	朝倉	<そう、多分>{>}、秘めてるものはあったと思うんすよね、やっぱ<り、血は繋がってるから>{<}。
140	満島	<あ、#よね、兄弟だから>{>}(うん、そう[朝倉])。

141	朝倉	なんか、兄貴がもう始めてて、格闘技を(うん[数原])、である日突然、呼び出されて(うん[数原])、でなんか、“グローブつけろ”って言われて、で“オレと、スパーリングするぞ”っていきなり(おー[満島])、夜中の、路上で(え[満島])、で殴りかかって来て、で本気で(<数原笑い>)(<満島笑い>)、<笑い>。
142	朝倉	“嘘だろ？”と思ってもう、ボクやりたくなかったんですけど(うん[満島])、もうやるしかないってなって、でも必死に殺されないように避けて、そしたら結構避けれて(うん[満島])(へーー[数原])、そこで才能に気づいたというか…(へーー[数原])。
143	朝倉	“お前絶対、格闘技やった方がいい”って言われて、その次、翌日に、格闘技入門して、<笑いながら>始めたのがきっかけです。
144	満島	**マジす**<か?[↓]>{<}。

GN4, 7, 10 と同じく聞き手が 2 名とも年下の GN3 で、GN4, 7, 10 よりも多くス体が使用されているのは、満島以外の参加者朝倉、数原もまた、ス体を比較的多く使用する発話をしていたため、調子を合わせていた可能性が考えられる（ス体の割合が朝倉は 36.3%、数原は 18.7%）。いずれにせよ、ス体の使用について GN3 における満島の発話は、GN4, 7, 10 とは異なるものとして捉える必要があろう。

6. 考察

異なる複数のグループにおける満島の発話を観察したところ、次のことが明らかとなった。まず、満島は全体を通して、聞き手が年上の時には「ボク」を使用することがあるが、基本的には「オレ」を自称詞としていた。間投助詞に注目すると、全体を通して「ね」を頻繁に使用する一方、聞き手が年下であれば「さ」も用いる傾向にあった。終助詞に注目したところ、聞き手が年下であるときに「じゃん」を用いていた。スタイルに注目すると、特に聞き手が年下である場合、非丁寧体を頻繁に用い、ス体はほとんど使用しない傾向にあった。

なお、聞き手が 2 名とも年下なのは GN3, 4, 7, 10 であったが、そのうち GN3 における満島の発話では終助詞「じゃん」の使用が一度も見られず、ス体の使用が他の 3 グループと比べて多いという異なる特徴が見られた。よって以下では、GN3 を除いた GN4, 7, 10 における満島の発話に注目して、言葉づかいと人物像の結びつき、さらにはキャラ自称詞「オレ」と結びつく自称詞キャラクタを考察する。

まず、間投助詞の使用について、大江 (2017) によると、間投助詞「さ」は、心的処理にかかりきりになっている発話状況で使用されると不自然になるという。以下の(10, 11)

はいずれも大江 (2017) による例文ある。(10)は記憶を一生懸命たどっている状況が想定されるが、(11)は幾分余裕があり、心的処理にそれほどかかりきりでない状況が想定される。その違いが間投助詞「さ」の使用の自然さと関わっているという。

(10) 彼の出身ってどこだっけ？
　　－ええと、{ネ／ナ／?ノ／?サ／?ヨ}、…どこ｛だ／じゃ｝ったかなあ、うーん。

(11) 彼の出身ってどこだっけ？－ええと｛サ／?ヨ}、ほら、あそこ、鳥取！

(大江 2017: 96 – 97)

心的に余裕をもって振る舞うことのできる要因は様々考えられるが、満島が年下との談話で間投助詞「さ」を使用していたことを踏まえると、満島の「さ」は、年上であること、すなわち上下関係に基づいた配慮が不必要であることによる余裕だと思われる。

次に、スタイルについて、GN4, 7, 10 で非丁寧体が多く使用されていたのは、聞き手が 2 名とも年下であったためである。それよりも特徴的であったのは、他のグループと比べて GN4, 7, 10 において、ス体の使用が顕著に少なかったことである。

中村 (2020) は、ス体の主な働きとして、「親しい丁寧さ」を挙げている (中村 2020:59) 。先輩に対して敬意を込めて敬語を使用すべきか、親しみを表すために敬語の使用は避けるべきかで悩む大学生が、丁寧体の丁寧さを受け継ぎつつ、丁寧体では表せない親しさも同時に表現するものとして使用するのがス体だということである。

このことから、満島が GN4, 7, 10 でス体をほとんど使用しなかったのは、《後輩》らしさに結びつく表現の使用を避け、年上として振る舞うためであったと思われる。

終助詞「じゃん」が使用されていたことについては、非丁寧体の多用が要因の一つだと考えられる。「じゃん」は非丁寧体とは共起するが、丁寧体とは共起しない。一方で、どのグループでもよく用いられていた「よね」は「ですよね」「ますよね」のように、丁寧体でも使用される。したがって、「じゃん」は、満島が年上として発話するために非丁寧体を多用した結果、GN4, 7, 10 で他のグループよりも使用されたのだろう。

実は、満島と同じく自称詞に「オレ」を使用し、間投助詞「さ」、終助詞「じゃん」を比較的多く使用していた談話参加者が、10 回のトークにもう 1 人いた。それは、GN1 の参加者のうち最年長の武井壮であった。武井は間投助詞「さ」を 11 回（7.48%）使用し、終助詞「じゃん」を 4 回（2.72%）使用していた。「さ」は全参加者の中で最も高い割合で使用しており、「じゃん」は満島以外の参加者の中では、武井の 4 回と、GN2 の日高の 1 回のみであった（なお、日高は GN2 の最年長参加者である）。

武井のスタイル使用に注目すると、非丁寧体は 45.58%、ス体は 11.56%、丁寧体は 19.73% であり、非丁寧体を多く使用する点が満島と共通する。また、ス体は満島よりも使用しているが、その多くは飲食店の店員に対する発話や、同じ GN1 の小澤に対する発話で見られる。店員に対する使用は内外の関係に基づくものである。また、小澤は武井よりも 1 歳下であるが、芸歴は小澤の方が長い。つまり、武井にとって小澤は“芸能界の先輩”である。そのため、小澤に対するス体使用は上下関係に基づいたものであると思われる。一方で、武井のス体使用は、聞き手が年下の満島に限定されるときには見られない。そ

のため、満島が年下相手にス体をほとんど使用しなかった点と共通する。

以上、自称詞に「オレ」を使用する男性話者として満島の発話に注目したところ、年下を聞き手とする発話で特徴的な言葉づかいが観察された。それらについて考察し、次の 3 点を主張した。1 つ目に、間投助詞「さ」が、心的に余裕のある状況で自然な表現であり、満島にとっての心的な余裕は、自らが談話参加者の中で年上であることによるものだと思われる。2 つ目に、聞き手が年下の場合、満島によるス体使用は著しく少なかったが、これはス体が《後輩》と結びつく場合があり、年上としての発話にはふさわしくないためだと思われる。3 つ目に、年下に対する満島の言葉づかいと同様の特徴が、GN1 の最年長参加者である武井壮にも見られることから、武井の言葉づかいと結びつく人物像は、GN4, 7, 10 の満島の言葉づかいと結びつく人物像と同じだと思われる。

以上を踏まえ、GN4, 7, 10 のような年下との発話に見られた満島による言葉づかいは、《先輩》という人物像と結びつくと考える。なお、“先輩”と言っても様々な定義があるが、注目する言葉づかいを満島が年下相手に使用していたこと、また同様の人物像と結びつく武井の言葉づかいで年齢以外に芸歴という要素も垣間見えたことから、本発表における《先輩》は年齢が上の者ではなく、より人生経験のある者を指す。

7　おわりに

本発表では、自称詞に「オレ」を用いる一人の男性話者「満島真之介」による、異なる複数のグループでの発話を観察した。

本発表のそもそもの目的は、次のようであった。すなわち、①一人の男性話者が異なる複数の談話グループの中で「オレ」を用いながらどのように発話するのか、自称詞以外の言語要素にも注目して観察すること、②自称詞とそれら言語要素が組み合わさることでどのような人物像と結びつくのかを考察すること、③ある特定の人物像と結びつく時とそうでない時の相違点、共通点を分析することであった。

この目的に沿って本発表の主張をまとめると次のようである。①一人の男性話者「満島真之介」の発話に注目すると、グループによって異なる話し方をしていることが明らかとなり、聞き手が年下のみのグループに共通して、自称詞に「オレ」を使用しながら、間投助詞「さ」、終助詞「じゃん」を使用し、またス体をほとんど使用しないという特徴が見られた。②これらの言語要素はどれも聞き手が年下のみの時に見られたことから、《先輩》という人物像と結びつき、人生経験が聞き手より豊富な者であることを表すと考察した。③満島の発話や武井の発話から、《先輩》と結びつく時とそうでない時の相違点は、自称詞「オレ」と共に間投助詞「さ」、終助詞「じゃん」が使用されるかどうか、また同時にス体が使用されないかどうかである。共通点は、間投助詞「ね」の使用や終助詞「よね」の使用、初対面場面での丁寧体の使用が挙げられる。

本発表の主張から、自称詞「オレ」がキャラ自称詞となって《先輩》と結びつく仕組みの一端が、他の言語要素や、人物像が発動される環境の点から明らかとなった。また、「オレ」と結びつく自称詞キャラクタは他にも複数存在すると思われるが、それらと《先

輩》の相違点、共通点が示唆された。

参考文献

金水敏. 2003. 『ヴァーチャル日本語　役割語の謎』. 岩波書店.

Miyazaki, Ayumi. 2004. Japanese Junior High School Girls' and Boys' First-Person Pronoun Use and Their Social World. Shigeko Okamoto and Janet S. Shibamoto Smith (eds.) *Japanese Language, Gender, and Ideology: Cultural Models and Real People*. 256 - 274. Oxford University Press.

三輪正. 2005. 『一人称二人称と対話』. 人文書院.

長崎靖子. 2008. 現代語の終助詞「さ」の機能に関する考察. 『川村学園女子大学研究紀要』19 (2), 173 – 186. 川村学園女子大学.

中村桃子. 2020. 『新敬語「マジヤバイっす」　社会言語学の視点から』. 白澤社.

大江元貴. 2017. 間投助詞の位置づけの再検討 : 終助詞との比較を通して. 『語用論研究』19, 90 – 99. 日本語用論学会.

定延利之. 2011. 『日本語社会のぞきキャラくり　顔つき・カラダつき・ことばつき』. 三省堂.

定延利之. 2020. 『コミュニケーションと言語におけるキャラ』. 三省堂.

宇佐美まゆみ. 2019. 基本的な文字化の原則（Basic Transcription System for Japanese: BTSJ）2019 年改訂版. https://ninjal-usamilab.info/wp-content/uploads/2020/01/BTSJ2019.pdf. 2022 年 6 月 4 日最終アクセス.